

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	鉄道技術	
科目基礎情報							
開設学科	電子・電気科		コース名	電気工学		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	30時間
単位数	2単位					授業形態	講義
教科書/教材	教科書「電気鉄道技術入門（持永芳文 編著・オーム社）」。参考資料等は、授業中に配布する。						
担当教員情報							
担当教員	角田安雄			実務経験の有無・職種	有・照明デザイン、計画		
学習目的							
電気工学コースの本質的な理解目標である「電気とは何か?」を理解する為に、この科目では「電気をどのように利用するか?」をテーマにエネルギー・信号等多岐に利用している鉄道分野の各種機器の構造・原理・特性について学習する。燃料コストの上昇、環境保全や安全性の面から自動車の利用に陰りが見えてきている状況の下で、道路交通から鉄道輸送へのモーダルシフトが社会的に期待され、その中心となる電気鉄道技術に対する一般の関心が高まっている。電気工学コースでは、電気鉄道分野の理解を深め、鉄道業界への関心を高めるとともに就職を見据えた予備知識の導入を目的としている。							
到達目標							
電気鉄道は車両、軌道、変電所や電車線のような地上設備、それらを支える構造物、さらに駅や車両基地といった周辺設備などで構成される総合的なシステムであるうえに、新たにナノテクノロジーや電子タグといった材料技術、無線LANや高度のシミュレーション手法といったICT技術、燃料電池や電気二重層キャパシタといったエネルギー技術、ICカードや携帯電話といったサービス技術などを取り入れて日進月歩している。その為、学習内容が多岐にわたりとても全てを網羅する時間が無い為、「鉄道における電氣的な技術」に絞り理解・習得を目指す。							
教育方法等							
授業概要	この授業では教科書に沿って授業を進めて行くが、教科書には書かれていない部分や、学生が理解するのに不足している部分について黒板に補足説明を板書していく。教科書だけではなく参考資料となるプリントの配布も随時行う。また機会があれば鉄道に関する講演会や見学会などを計画し鉄道業界への関心も促す。						
注意点	電気工学の中でも「鉄道」という限られた分野の内容である為、暗記したり覚えたりするよりも、知識として持っていた方がいい内容となる。従って板書した内容をノートに書き写し、自分の財産として持っておくことが望まれる。試験も直筆のノートを持ち込んだの解答を認めるが、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～10回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	鉄道の歴史、鉄道の動力方式		電気鉄道の歴史的な展開と現状、ディーゼル運転と電気運転の特徴に関して理解する				
2回	電気鉄道の種別、鉄道の電化		用途による電気鉄道の分類、日本の鉄道の電化の現状について理解する				
3回	き電方式、電気車の回路構成		直流き電・交流き電の特長と実使用例、主回路、制御回路、補助回路について理解する				
4回	集電装置、遮断器、主電動機		パンタグラフ、集電靴、遮断器、直流電動機、誘導電動機について理解する				
5回	直流電動機速度制御		速度制御のしくみ、逆起電力について理解する				
6回	抵抗制御		抵抗制御・直並列制御による速度制御の仕組みについて理解する				
7回	界磁制御		界磁制御による速度制御の仕組みについて理解する				
8回	界磁添加励磁制御		界磁添加励磁制御による速度制御の仕組みについて理解する				
9回	VVVFインバータ制御		インバータによる速度制御の仕組みについて理解する				
10回	まとめ		全体のまとめ				